



Kaji Junior high school times
梶中学校通信



発行：大阪府守口市立梶中学校
校長 丸山 宗久
☎06-6902-0813 ☎06-6907-2669
〒570-0015大阪府守口市梶町4-28-5



入選！明るい選挙啓発ポスターコンクール

～第一次選考(各市)で見事入選～



→標記のコンクールにおける第一次審査(守口市)にて、本校から入選(一名)、佳作(二名)が選出されました。尚、入選作品は守口市の代表作品として第二次審査(大阪府)に出品。そこで入選となれば、大阪府代表作品として最終審査(全国)に進みます。残念ながら第二次審査では惜しくも入選を逃したものの、一次選考での入選は賞賛に値します。市単位の入選ではありますが、毎年各市町村通じて募集のある全国規模のコンクールであるという事で紹介致します。



【11.12生徒集会以紹介】→美術部員の生徒達が本コンクールに出品してくれましたが、過去、令和二年度に梶中学校の卒業生が梶小学校の5年生時に同コンクールに出品。見事最終審査(全国)迄進み、そこで「会長賞」に輝いた実績もあるコンクールです。今後は梶中生の活躍が続いてくれる事を切に期待します。佳作も含め、出品してくれた皆さんにも感謝します。

11.9(日)藤田地区：市民文化祭

～地域皆で秋のひと時～

→標記の日程にて、「藤田地区：コミュニティ文化祭」が会場の東部コミュニティセンターで開催。当日は生憎の雨天でしたが、会場内は参加者の高い熱気で盛り上がりました。

【梶中学校の美術科作品も展示】

→本文化祭は同地区の敬老慰労会も兼ねており、多くの高齢者の舞台参加もありました。その応援のために本校在校生や卒業生、藤田小学校の児童も駆け付けていました。舞台では高齢者の舞踊、男性合唱サークルの発表や、ダンススクールの幼児から小学生、中学生の発表の数々。展示コーナーでは地域住民作の工芸品等の他、藤田小学校、梶中学校の図工・美術作品の展示で祭に花を添えました。



11.11(火)梶中学校区CS：事務局会議

～11.27総会に向けて～

→標記の日程にて「梶中学校区CS(コミュニティ・スクール)事務局会議」が、会場の藤田小学校において実施。梶中学校区3校(藤田小・梶小・梶中)の校長及び教頭。藤田地区及び梶地区コミュニティ協議会会長が参集し、来る「11.27梶中学校区CS総会」に向けて協議しました。

【次年度への向けてのビジョン】

→今回の事務局会議は11.27のCS総会の準備ですが、次年度の大綱における方向性についても協議されました。特に次年度は、会員の任期満了に伴う人員の入れ替わりが多い事他にこれまで梶中学校区CS方針や運営方法等においても、この機会に新たな取り組みを行なう事等様々な意見、提言が多く交わされた会議となりました。





11.10~14 第一学年：家庭科・調理実習

～苦勞して完成した料理は最高の味わい～



→標記日程期間において、第一学年が家庭科授業で調理実習を実施しました。第一学年の生徒達にとっては中学校入学後初となる調理実習に生徒達が大きな関心を持っている事もあり、事前の学習にも意欲的に取り組んでいました。

【メニューはトマトソースパスタ】→班毎に分かれて挑む調理実習は時間との勝負です。指定された材料、指定された分量、そして指定された時間内、更には班のメンバーが詳細な役割分担を打ち合わせて臨む調理実習は興味・関心が高い反面、様々な面での苦勞も多い実習です。一旦始まると生徒達は事前指導の内容を確認しながら慌ただしく立ち回ります。家庭科担当教師の声が調理室に響き、一瞬も気を抜けない時間が過ぎて行きます。それでも班員と協力して漸く完成のトマトクリームパスタは中々の出来栄え。試食の時間は至福の時間となりました。



11.12(水) 全校生徒集会

～後期生徒会役員始動～

→標記日程で、全校生徒集会を会場の本校体育館で実施致しました。新生徒会執行部役員になってから初となる全校生徒集会で、後期役員にとっては「デビュー戦」となる集会です。前期とは又違う空気感での実施となりました。

【各委員会も後期初】→各種委員会からの報告においても、後期初となる委員会であり、「顔合わせ」「自己紹介」があったとの報告が目立ち、いよいよ後期が始動したとの印象を強く持ちました。又、各種コンクールや、部活動においても成果を挙げ、数多くの表彰伝達があった全校生徒集会でした。



11.12(水) 府美研：中央研究発表大会

～大阪府の造形教育の集大成～

→標記日程で「大阪府美術教育研究会」主催「中央研究発表大会」が、会場の交野市立郡津小学校において開催。大阪府内各地より小学校・中学校・義務教育学校の図画工作科・美術科担当教員の他、各市教育委員会造形教育教科担当指導主事、大学関係者等々、多くの参加がありました。

【造形を如何に評価するか】→今年度の同大会において多くの焦点が評価の課題でした。作品主義に陥らず、しかし子ども達の造形活動を如何に評価すべきかについて多くの意見が挙がりました。ある意味図工、美術の教科としての永遠の課題ですが、今後も精度の向上が望まれます。



芸術の秋

→「芸術の秋」に相応しく本校美術科における話題。現在第三学年教室付近に、美術科で制作した抽象表現の絵画を展示中です。自分の内面を造形化する作品ですが、本来目に見えないものを造形するのはハードルが高い表現です。思春期真っ只中。更に受験を控えている生徒達の心象をよく表している作品群です。本校にお立ち寄りの際は是非御鑑賞頂きたく存じます。

